

で溢れ、それぞれの青春時代が走馬灯のように蘇ってくる一瞬です。同級生との再会はもちろん、思いがけない先輩や後輩との再会も楽しいものです。また、二期生であり元校長先生の中尾充宏先生も毎回参加して頂いております。同窓生として、元校長先生として会を見守って頂いております。私が支部長に就任してから四年間の内、二回はこの「福岡支部の集い」を開催できたのですが、二年前からの新型コロナ禍の影響で二年続けて開催を見送らざるを得ない状況に追い込まれてしまいました。今年こそは何としてでも再開したいと福岡支部役員一同、気合を入れています。余談ですが、福岡支部の役員同士は仲が良く、この新型コロナ禍の中でもなんとか集まり、ゴルフや飲み会を重ねています。福岡在住の同窓生の皆さん、福岡支部の活動に参加されませんか。楽しい仲間がお待ちしていますよ。

## 【一般投稿】

### 信頼性への想い

島川 邦幸 (5E)

佐世保高専を卒業して51年、再雇用も終わり退職後7年になります。

現在は依頼ベースで信頼性の全体像や基本的な要素、手法の普及に努めています。信頼性は品質の要素の一つで時間的品質とも言われ、製品が期待される期間、故障せずに使えるかどうかという問題を扱います。ここでは私がなぜ信頼性に関心を持つようになったのかを紹介したいと思います。

小中学生のころは、だれが計算しても答えは一つという数学が私にとってとても魅力的でした。そして高専時代には定理や公式の証明ができたときに満足感を味わい、会社時代初期には、ファクシミリ用の周波数フィルター設計時、行列式を使った周波数特性の理論値と実験結果がぴったり一致したことに深く感動しました。

設計時代、上司の勧めで日科技連の「信頼性セミナー専門コース」を受講することになりましたが、様々な難しい数式が出てきて追い付いていけませんでした。確率・統計の知識不足です。基本ができていないので何故そういう式になるのかが理解できなかったのです。ちょ

うどその頃、担当していた商品の開発が中止となり設計部隊解散、仲間がバラバラになってしまいます。私は会社の国内留学制度を利用し大学で統計を勉強しなおすことにしました。4年後、復職先に品質保証部を選ぶことにしたのですが、当時、品質保証部にこれから30年も所属するとは思っていませんでした。

品質保証部では、製品試験から品質戦略の立案・推進まで一通りの品質保証業務を経験しますが、なかでも信頼性試験結果と市場実績の差異分析による試験法・評価法の改善と、経営課題のひとつとして信頼性改善の推進が印象深く、いずれも信頼性にかかわる業務でした。さらに、昨今は様々な業界で部品の共通化やシステムの巨大化が進み、ひとつの故障や人のミスが大規模リコールや大きな事故に繋がるという時代であり、信頼性はますます重要になっていると考えています。

信頼性は当たり前品質と言われますが、製品の開発段階はまさに信頼性と格闘しているといっても過言ではありません。信頼性は時間が経たないと本当の良悪がわからないため、各社とも開発段階に製品の故障や寿命を予測、推定しながら信頼性を作りこんでいます。相田みつをさんの詩に「花を支える枝 枝を支える幹 幹を支える根 根はみえねんだなあ」というのがあります。市場でしっかり花（商品）を咲かせるためには表舞台に出てこない根（信頼性）の部分を育てていかなければなりません。

品質保証部時代、日科技連の信頼性シンポジウムなどに顔を出していたのですが、その日科技連からの帰りの電車が同じになる、ほぼ同じ年代の有志が集まり、自主的に研究会を開くことになります。様々な会社で信頼性に関心を持つ人達や大学の先生が組織の枠を超えて信頼性に関する悩みや課題を持ち寄り、意見を出し合いました。この研究会のメンバーの多くが後に日科技連の信頼性セミナー基礎コースのテキスト作成や講師を担当することになります。この研究会は'80年代から'90年代にかけて毎月一回土曜日集合、約10年間続きました。この間、他社の事例や自社の信頼性データ解析の理論的裏付けを習得することにより信頼性工学の基礎知識が身についたと思います。

以上の振り返りから、私の場合以下の2点が信頼性に

関心を持ち続ける原動力になったと考えています。

①こうなるはずだという理論と実際が一致したとき深い感動を覚えたこと。

②同じ分野で、悩みや課題を共有できる社外の仲間と切磋琢磨できたこと。

今後も微力ながらしばらくは信頼性管理や信頼性データ解析、信頼性技術の紹介に努めていくつもりです。

## 「高専生よ、取り戻せ技術立国の日本を！」

江口 実 (12M)

かつて技術立国の日本と言われた存在が世界に通用しなくなっている。IT、AI、ハイテク技術を甘く見た結果だとか、小泉政権後のデフレの20年間、企業が人を採用してこなかったつけが回ってるとか。今、日本企業が抱える経営課題は4つ、①技術革新への対応、②経営資源、人の確保、③気候変動、脱炭素社会への対応（SDGs 持続可能な開発目標、災害対応）④働き方改革への対応であり、これはコロナ前から今も変わっていない。

先日あるメディアで「将来の日本を救うのは高専生だ」と耳にした。「ロボコンを続けてきた33年間、継続は力なり」今や自動制御もAIも駆使した競争となっている。後輩たちよ頼もしい限りだ。技術者を育てる国家戦略は今や中国の科学技術大学にしてやられている。もう一つ、昭和の人間教育として我々OB達が今もありがたく感じるのは、同級生と兄弟になれた「西雲寮」という集団生活の存在だ。卒業から45年経った今でも、あらゆる業種に仲間の存在がいてつながってる。自宅から学校に通う事が当たり前の時代に、懐かしさが蘇る。そして過去は正しかったと言わしめるものがある。社会に出たら、仕事は人間関係、原点の教えがそこにある。今や世界の20社ランキングに日本企業は存在しない。カーボンニュートラル社会への対応、投資も日本からの撤退が続いている。改めて今の日本を救う救世主は何なのかを思考する中で、やはり人材育成、国家は人なり、専門の技術教育の重要性を考えずにはいられない。「高専生よ、取り戻せ技術立国の日本を！」そこに秘められた未知の可能性を感じてならない。

## “一生の友を得た”こと

濱本 輝実 (16E)

“どなたか、同窓会会報に投稿していただけないでしょうか？”・・・唐突に同級生のLINEで呼び掛けられると、困りますよね。

私、昨年10月に還暦を迎えました・・・ということは、佐世保高専を卒業して早や40年の歳月が流れたわけで、ビックリ驚きます。

しかしながら、もっと驚くことは、40年もの歳月が流れたにも関わらず、“あの頃”のことを鮮明に覚えていることです。

沖新の西雲寮に入寮して4人部屋に詰め込まれ、朝っぱらから、“7時になりました～あ。7時になりました～あ。学生は中庭に出て点呼を受けてください。起床～お！”の放送に叩き起こされて、“集団カギョウ”を眠そうにガラガラ走っていた奴がいました。

私はボート部員でした。漕ぎ手が4人とコックス（操舵手）が1人でクルーを組む「ナックルフォア」という艇に乗っていました。練習での気合が試合になると空回りして、プリプリ怒る奴、真剣に漕いでるんだかどうか判らない飄々とした奴がいました。

前期と後期に2回ずつ試験がありました。私は“頭が悪かった”ので試験前1週間は必至で暗記をするんですが、クラスの中には、いっつも勉強をしなくても“良か点”を取る奴がいました。

本来、高専の学生って（あくまで私の年代のことですが）貧乏でしたから、寮を出て下宿や通学をしようもんなら、バイトをしなきゃ暮らしていけなかった。あの頃、バイトって言えば“家庭教師”が主流でした。そんなバイト先で、教え子（？）とお付き合い（恋愛）が芽生えたり、結婚した奴、いませんでした？

高専の5年生って20歳（はたち）ですよ？立派な、大人（おとな）です。高専に入ったら、皆さん、1年生の時から“学生さん”って呼ばれていませんでした？中学の同級生は高校1年生で“生徒”と呼ばれていたはずですよ。

いっつも汚れた白衣を着て汚ったないタオルをぶら下げていた先生、ドイツ製の愛車を駆って授業中に“フリップ、フロップ”をゼスチャー入りで連呼していた先

生、“サーキット！”と号令を掛けてはやたらと走ること  
に情熱を燃やす先生、英語のカセットテープが入った  
ポータブルカセットデッキを持って“ジャミラ”と呼ば  
れていた先生・・・etc、たくさんの個性的な先生方が  
いました・・・よね？

便利なモノです、SNS っていうモノは。先日、同級  
生 8 名と LINE で“WEB 飲み会”を催しました。彼らと  
モニター越しに語り合っているうちに、いろんな“奴ら”  
の顔が浮かび、彼らの声が聞こえてくるようでした。

これまでも、そしてこれからも“人生不如意、十常  
八九”でしょう。

そんな時、“一生の友を得た”ことが、佐世保高専を  
過ごした私の宝です。

## 【学生投稿】

### 高専ワイヤレスIoT コンテストにて

電子制御工学科 5年 佐藤 優輝

2021 年度の高専ワイヤレスIoT コンテストにて、5G  
部門で採択いただいたチーム「3 Diver」です。

私たちが取り上げる地域課題は、水中構造物の劣化で  
す。長崎県は造船ドックや養殖生けす等の水中構造物が  
特に多い地域です。これらは定期的な保守を行う必要が  
あります。私たちは、この課題に対して5Gを活用した  
アプローチを試みています。

具体的には、まず水中構造物を水中ドローンのカメラ  
を用いて撮影し、動画データを5G回線を用いてPCに  
伝送し、水中構造物の3次元モデルを作成します。また、  
AIを用いて錆の自動抽出を行い劣化診断に役立てます。

このコンテストを通して、プレゼンテーション用資料  
や計画書、定期的な報告書などを作成したり、事務局の  
方と話し合ったりと慣れていないことに取り組むことが  
多々ありました。しかし、今では社会人になるために必

要な経験であったと感じています。このような機会を頂  
いたこと、関係者の皆様にはとても感謝しています。



### ラグビー部 5 年間の変化

電気電子工学科 5年 森 光輝

先日、神戸で行われた第52回全国高専大会出場をもつ  
て、私は16年間続けたラグビー競技を引退しました。  
この16年間の中で、高専での5年間は、最も学ぶこと  
の多い、充実した期間でした。

今年度は、チームの中心として、4年生が主将や副将  
などの役割を担うこととなり、私たち5年生はサポート  
役として携わる形で活動しました。私は、前年度休学し  
ていたため、1年ぶりにラグビー部に復帰しました。復  
帰後、何より痛感し、学んだことは、人に教えることの  
難しさでした。下級生の頃は、自らの技術向上だけを考  
え、経験と勘に頼りながら感覚的に行ってきた動作を、  
高専入学を機にラグビーを始めた後輩たちに、言語化  
し、理解してもらえるように説明する。これは私にとつ  
て初めての経験であり、自らを成長させる良い契機にな  
りました。他人の立場になって考えてみるという感覚を  
学び挑戦することができたからです。



取締役 執行役員 開発本部長 大久保 篤 機械工学科 18 期卒業

本社 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-11-7 ATT 新館 10 階 TEL 03-6230-4414 (代表)

F1 松浦工場 〒859-4521 長崎県松浦市今福町北免 1642-12 TEL 0956-73-8111 (代表)

URL : <https://www.chukoh.co.jp>

中興化成工業は 1963 年松浦市で創業以来、ふつ素樹脂を主力とした高機能樹脂の総合加工メーカーとして歩んできました。  
佐世保高専卒業生は 17 人が在籍し、お客様の課題にソリューションを提供するために各拠点で活躍しています。

長いようで短かった5年間を振り返ると、自分のことだけを考え、人と関わっていた下級生の頃の私を、寛容に受け入れ、自分のプレーだけに集中させてくれた先輩方。完璧ではない私の教え方を理解しようとしてくれた後輩達。この仲間達のおかげで私は成長することができました。私を成長させてくれた仲間や先生方に会うことのできた佐世保高専ラグビー部は、最高の部活動です。

佐世保高専で起きた多くの出来事、仲間と過ごした日々は私の一生の財産となり今後の人生に良い影響を与えてくれると思います。これからも挑戦する心を忘れず常に前進していきます。

## 2021 ロボコン大会報告

電気電子工学科 4年 梅林 智恵

私たちロボコン・プロジェクトは、10月17日に行われた高専ロボコン2021九州沖縄地区大会に参加しました。大会のテーマは「超絶技巧(すごロボ)」。例年と異なり、各高専でテーマに合ったロボットを作成し、ロボットの技術・パフォーマンスを競う形式です。佐世保高専からはA・B 2チームが出場しました。

Aチームからは人間の動きを模倣する「マスターズレーブ」を用いたロボット、Bチームからは円筒状の物体を放射線状に飛ばし、目標地点に立たせるロボットが出場しました。両チーム全国大会への出場は惜しくも叶いませんでしたが、Bチームは「田中貴金属賞」と「技術賞」のダブル受賞を達成しました。

例年ロボットは安定した動作をしています。パフォーマンスの精錬不足や練習不足などが要因となり全国大会への出場が果たせていません。来年度は今までの経験を活かし、作業効率などすべて見直し、3年越しの

全国出場を果たしたいと思います。

今回の大会では会場の確保、環境の整備やネット環境などの事前準備、スケジュールの調整など、教職員の皆様に加え指導教員や学生会、顧問の先生方に多くご支援いただきました。また、大会当日には体育祭でお忙しい中でもオンライン上で熱い応援をいただき、落ち着いた雰囲気大会に臨むことが出来ました。OBの皆様、学校関係者の皆様、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。来年も専攻科に進学された先輩方も含め一丸となって大会に挑みたいと思いますので応援のほどよろしくお願いたします。



写真1 Aチーム メンバー&ピットクルー 放送中



写真2 Bチーム メンバー&ピットクルー 放送中

日本の西の果て、長崎から海外を攻める

 **株式会社 亀山電機**  
Kameyama Electric Co., Ltd.

代表取締役 北口 功幸  
機械工学科 20期卒業  
本社 〒852-8002 長崎市弁天町3番16号  
TEL: 095-864-7000  
URL: <https://www.kameyama-grp.co.jp/>

亀山電機は、IA、OA、Webの3つの事業を通じて日本の西の果て「長崎」から海外を攻めている企業です！世界のプラント・工場・オフィスが必要とする自動化(オートメーション)に「Industrial Automation (IA)」「Office Automation (OA)」「WEB」の最適な技術を提供致します。  
佐世保高専卒業生：  
21E 栗田浩一 27E 大田義之 32S 滝川雄  
43M 辻田由香 44M 柴山晃一



弊社ホームページ



写真3 応援も会議室からリモート参加

## 【佐世保支部の集い】

佐世保高専同窓会「佐世保支部の集い」を開催します。  
参加希望の方は、イベント管理システムにログインして、トップページのお知らせ画面から「2022佐世保支部の集い」のタイトルバーを押し、イベント出欠登録画面に進んで「参加」ボタンを押して下さい。コロナ感染対策のご協力のお願いがありますので、ご確認ください。

日時 2022年7月2日(土) 17時～20時

場所 佐世保ワシントンホテル

## 【母校への寄付金のお願い】

本年は、母校 佐世保高専は創立60周年を迎えます。母校の今後益々の繁栄には、皆様の寄付金が後押しとなります。寄付金振込の要領については、別途母校事務局より案内が郵送される予定ですので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。(寄付金額：一口5,000円)

## 【同窓会への寄付金のお願い】

同窓活動は皆様の寄付金にて運営されております。同窓会HPの充実による会報電子化、会員同士の情報一元化等には皆様の寄付金が後押しとなります。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

寄付金振込先(寄付金額：一口5,000円)

◎郵便振替(口座番号：01810-8-2985)

加入者名：佐世保工業高等専門学校 同窓会

※振込用紙を同封しております

◎銀行口座(十八親和銀行・日宇支店)

(普) 1272703：佐世保高専同窓会事務局

(注)「氏名+期+科」(例：林シタウ5C)で振り込み願います。

## \*\*\*ご注意ください\*\*\*

佐世保高専同窓会と無関係の業者から同窓生に対して名簿販売の案内や情報提供依頼が送られることがありますのでご注意ください。

## 【編集後記】

編集しようにも原稿が集まらず途方に暮れ、同窓会会員名簿をパラパラとめくっておりましたら、入学前からの知人だったとある先輩のお名前が目に残りました。名簿は発行から10年経過しており、転居されていなければよいがと思いつつ架電してみました。直ぐに先輩ご本人が出られました。スマホが普及し家庭固定電話には不要な営業や各種迷惑詐欺電話が多く架かるため留守電に切替えてあることが多いご時世に、なんて無防備な対応でしょうか!! およそ50年ぶりの電話での再会、辛うじて何処の誰かは思い出していただけて、事情をお伝えすると、なんとあっさり原稿の執筆についてご協力頂けると、即答してくださいました。50年ぶりにお話ししたのに、僅か5分で用が済んだ。思いもよらぬ展開になかなか頭が動きませんでした。今までに味わったことのない安堵感、例えようのない満足感です。つくづく同窓会名簿を買っておいて良かったと思いました。(山口浩)

## 【佐世保高専同窓会 会報印刷及び発送委託業者】

小野高速印刷株式会社

熊本営業所：〒862-0951 熊本市上水前寺町1-12-12

電話：0120-58-3002 Fax：0120-81-2299

誌名 沖新(佐世保高専同窓会報)

発行日 2022年5月

発行 国立佐世保工業高等専門学校  
同窓会報編集委員会

〒857-1193 佐世保市沖新町1-1

電話&Fax：0956-34-8463

ホームページ <http://www.sasebo.ac.jp>

印刷：小野高速印刷株式会社